はじめに

この『糖尿病治療ガイド』は1999年に初版が作製されて以来，ほぼ2年おきに改訂され，足掛け18年間にわたって発行されている．この間に累計約126万部発行され，糖尿病の専門医のみならず，糖尿病が専門ではない実地医家の先生方や医療スタッフ，研修医や医学生にまで広くご利用いただいている．

本書は，日本糖尿病学会の理事，評議員から選ばれた委員に日本医師会の常任理事を加えた“糖尿病治療ガイド編集委員会”が編集を行っている．今回の委員会では，谷澤幸生委員，中村二郎委員，野田光彦委員に代わり，新しい委員として植木浩二郎委員，大澤春彦委員，古家大祐委員をお迎えし，改訂作業を行ってきた．

今回の改訂ではとくに，①本学会ならびに他の学会のガイドラインとの整合性，②新たに登場した治療薬への対応，などの事項に重点を置いて内容の見直しを図った．

①に関しては，食事療法の進め方（41～42頁），たんぱく質摂取量（42，84頁），食塩摂取量（43頁），小児のエネルギーの食事摂取基準（93頁），妊娠中の糖代謝異常の診断基準（94頁）に変更を加えた．また，97～98頁に，日本糖尿病学会と日本老年医学会が合同で新たに策定した「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標」を掲載した．

②に関しては，6章「薬物療法」（48～72頁）と付録「血糖降下薬一覧表」（108～111頁）において，2016年4月現在の薬剤情報をできるだけ加えた．付録「自己検査用グルコース測定器一覧表」（106～107頁）でも，新商品・販売中止による掲載機種の入れ替えを行った．

さらに，本学会の学術評議員の皆様や日本医師会などからのご意見を基に必要な修正を加えた．ご協力いただいた皆様に，この場をお借りして厚く御礼を申し上げたい．

糖尿病患者が増加していく中，糖尿病の早期診断・早期治療や治療中断の阻止が重要な課題となっている．本書が，日々進歩している糖尿病治療の理解に役立ち，毎日の診療に一層活用されることを願ってやまない．

2016年4月

糖尿病治療ガイド編集委員会

※本書は「糖尿病診療ガイドライン2016」を基準として，現時点の標準的な糖尿病の治療指針についてまとめたものである．診療現場では，個々の患者の状態を正確に把握したうえで本書を参考としていただきたい．